

国語科学習指導案

日 時 令和元年11月12日(火) 5校時
実施学級 加治木高等学校1年1組(40人)
授業者 宮内 裕平

1 研究主題

本文中の根拠に基づき、和歌に込められた登場人物の心情を的確に読み取る力の育成

2 単元・教材名

(1) 単元名 登場人物の心情を読み味わおう

(2) 教材名 『伊勢物語』『芥川』

3 生徒の実態と単元設定の理由

普段は明るく活発で社交的な生徒が多いが、特に古典に対しては「暗記科目」という認識を強くもっており、授業中も受身の姿勢が見られる。また、感受性豊かな生徒が多いが、そのためか本文を逸脱して自分の感覚で文章を読んだり、一部分にのみ着目して文章を読む生徒も多い。

今回教材として設定した『伊勢物語』は男女における恋愛をテーマとした章段が多く、生徒が教材に親近感を持って主体的に読み味わおうとすることが期待できる。また、歌物語である『伊勢物語』は、物語と和歌を緊密に結びつけて場面や心理を形成しており、本教材「芥川」も、本文叙述と男の心情の集約としての和歌表現とによって、実に豊かな物語世界が構築されている。従って本文叙述の結晶である和歌を単独で解釈することは不可能であり、和歌の解釈のためには必然的に地の文の的確な読み取りが必要になる。

本実践では、「和歌に込められた男の心情を心内語（セリフ）に書き換え、意見を交換する」活動を通して、本文中の根拠に基づき、和歌に込められた登場人物の心情を的確に読み取る力の育成を目指す。

4 単元の目標

- ア 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わおうとしている。
(関心・意欲・態度)
- イ 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。
(読む能力) 指導事項(1)ウ
- ウ 言語文化の特質について気づき、伝統的な言語文化への興味・関心をひろげること。
(知識・理解) 指導事項(1)ア(ア)

5 取り上げる言語活動

「和歌に込められた男の心情を心内語（セリフ）に書き換えて、意見を交換する」活動

6 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わおうとしている。	・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わっている。	①歌物語への興味・関心をひろげている。 ②助詞の用法や古文単語の意味について理解している。

7 指導と評価の計画（全4時間）

時	過程	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
1	導入	・平安時代の恋愛についてや在原業平、歌物語について理解する。 ・「白玉か…」の和歌だけ提示し、どのような和歌であるか予想する。 ・単元の目標を理解する。	・興味関心を持たせつつ、古典常識を身につけさせる。 ・三十一音だけで歌意を読み解く困難さを体感させる。	知識・理解① 【行動の観察】 関心・意欲・態度
2	展開①	・本文全体を読み、大概をつかむ。 ・現代語訳を通して、本文前半の内容を理解する。	・登場人物の設定や物語の展開を大きくつかませる。 ・読解上不可欠な文法事項や古文単語の意味は確実に押さえさせる。 （「の」「え～打消語」「で」「呼ばふ」「率る」「かひなし」等）	読む能力 読む能力 知識・理解② 【行動の観察】 【記述の確認】
3	展開②	・現代語訳を通して、本文後半の内容と和歌の現代語訳を理解する。	・読解上不可欠な文法事項や古文単語の意味は確実に押さえさせる。 （「あな」「かひなし」「なむ」「まし」「ものを」等）	読む能力 知識・理解② 【行動の観察】 【記述の確認】
4	まとめ	・男の心情が読み取れる箇所を指摘する。 ・和歌に込められた男の心情を心内語（セリフ）に書き換える。	・和歌に込められた心情を読み取るために必要な本文中の根拠を指摘させる。 ・直訳に少し言葉を加えるだけでなく、地の文から読み取れる内容も含めて自分の言葉で表現させる。	知識・理解① 読む能力 【行動の観察】 【記述の確認】 関心・意欲・態度

8 本時の目標

- ア 和歌に込められた男の心情を、自分の言葉で表現しようとしている。
 （関心・意欲・態度）
- イ 本文中の根拠に基づき、和歌に込められた男の心情を的確に読み取る。
 （読む能力）
- ウ 歌物語における和歌の役割について理解する。
 （知識・理解）

9 本時の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
・和歌に込められた男の心情を，自分の言葉で表現しようとしている。	・本文中の根拠に基づき，和歌に込められた男の心情を的確に読み取っている。	・歌物語における和歌の役割について理解している。

10 本時の実際（4 / 4） ※下線部は研究主題と特に関連の深い活動

	学習活動	指導上の留意点	評価規準
導入 1 0 分	・二人組で音読する。 ・前時までの振り返りをする。 ・予習で考えてきた「和歌に込められた男の心情」を発表する。 ・本時の目標を確認する。 本文中の根拠を基にして，和歌に込められた男の心情を理解する。	・読み違いは指摘し合うよう促す。 ・歌物語の特性を確認させる。 ・生徒の答えは適切に評価する。 ・ポイントは「本文の根拠を基にする」ことだという点を強調する。	知識・理解 関心・意欲・態度 【行動の観察】 本時の目標を理解して，和歌を読み味わおうとしている。
展開 ① 1 0 分	・<u>男の心情を理解するために必要だと思われる箇所を本文中から拾い上げ，そこから読み取れる内容について考える。</u>（個人） ・周囲の生徒と確認し合う。（少人数）	・本文の該当箇所に線を引かせ，そこから読み取れる心情を考えさせる。	読む能力 【行動の確認】 本文に根拠を求めようとしている。
展開 ② 2 5 分	・和歌に込められた男の心情を男の心内語（セリフ）に書き換える。（個人） ・<u>セリフを発表し，意見交換する。</u>（少人数→全体）	・和歌の場合は三十一音に心情が集約されているが，その制約がなかったとしたら，男は何を思っていたらどうかということを表現させる。 ・根拠に基づき，自分の言葉で表現することを確認する。 ・工夫した点も含めて発表することを強調し，発表に対する意見や感想を発表させる。	読む能力 【記述の確認】 男の心情を的確に読み取った上で，自分の言葉で表現しようとしている。
まとめ 5 分	・本時の振り返りを記述する。（個人） ・時間があれば，第六段の続きを紹介する。	・気づきや自己の変容について記述するよう促す。	関心・意欲・態度 【記述の確認】 身についた資質能力について意識的に振り返っている。

11 判断基準に基づく評価

評価規準（「思考・判断・表現」）	
本文中の根拠に基づいて和歌に込められた男の心情を的確に読み取り，自分の言葉で表現することで理解を深めている。（読む能力）	
思考，判断に基づく表現内容（評価の対象）	
生徒のワークシート（心内語への書き換え）の記述	
判断の要素	
ア 根拠に基づく心情理解 イ 自己の解釈を踏まえた表現	
尺度	判断基準
B	ア 本文中の根拠に基づいて，心情を的確に読み取っている。 イ <u>読み取った心情を自分の言葉で表現している。</u>
	（予想される生徒の表現例） <u>何年も何年も思い続けてやっとのことで手に入れたあの人を一瞬で失ってしまった。大切に守りたいと思ったから倉の中に押し入れておいたのにそれがいけなかったなんて。こんなことになるくらいなら，あの人「あれは真珠か何か。」と尋ねたとき，「あれは露だよ」と言って消えてなくなってしまうばよかった。でももうどうすることもできない。悔やんでも悔やみきれない…</u>
C 状況生徒への指導	判断基準Bを基に，主題の読み取りや表現の仕方，補充指導を行う。
尺度	判断基準
A	より詳細な読解がなされ，深まりが効果的に表現されている。
B 状況生徒への指導	判断基準Aの状況にある生徒の作品について交流させたり，判断基準Aの内容に関する問いかけを行ったりしながら深化指導を行う。

12 研究授業を終えて

I 今回の研究授業の工夫改善のポイント

（１）研究授業実施前の課題

①古典への苦手意識の強さや受け身の姿勢。

②本文を逸脱した読解や一部分にのみ着目した読解。

（２）工夫改善のポイント

①興味関心の喚起。

古典はおもしろいと思わせるのが一番だと考えたので，興味関心を持ちやすい教材を設定した。また，導入で平安時代の恋愛など背景知識について丁寧に扱い，最初に和歌から本文叙述を予想させることで，予習への意欲を高めることを目指した。

②本文に線を引かせる作業とリライト。

本文叙述から心情が読み取れる箇所に線を引かせ，読み取れる心情を記述するという学習活動を設定した。また，本文叙述の結晶が和歌として描かれる歌物語の特徴を活かし，本文叙述から読み取った心情をもとに心内語（セリフ）にリライトさせるという学習活動を設定した。

Ⅱ 授業での成果と課題

(1) 成果

① 古典への興味関心の喚起という部分では概ね満足できるものだった。

【生徒の感想から抜粋】

- ・「和歌から入ったので『内容はどんな感じなのか。』と想像しながら本文を読めておもしろかったです。」
- ・「古典は内容が深く面白いと思った。より深く歌について考えるのが楽しかった。」

② 根拠を基に考えるという意識が身につき、中には根拠を基に読み取った心情を自分の言葉でリライトできた生徒もあり、一定の成果はあったように思う。

【生徒の感想・記述から抜粋】

- ・「根拠のないことを絶対に答えに はいけない。」
- ・「歌物語を読む上で、和歌は直訳だけにとらわれず、歌と地の文との関係性を考えて、歌を訳しただけでは分からない心情を捉えることが大切だと思った。」
- ・「あなたがどんなに手の届かない存在でも、結婚したくて諦められなかったんだ。やっとのことで盗み出したが行く先が遠く夜も更けてしまったので、あまり外に出たこともないあなたをを太事に思い倉に押し入れた。僕があなたを守るつもりでいたが、叫び声を聞くこともできずあなたを失ってしまっって本当に悲しい後悔している。できることならあなたを連れ出してすぐ、露について聞いてきたあのわずかな幸せな時間に戻って本当のことを教えてあげたい。そうしてそのまま消えてしまえたら良かったのに…」

(2) 課題

① 他の古典作品への興味関心の波及。

今回の教材に対してはある程度興味関心をもたせることができたが、他の古典作品にもつなげていく必要があり、また、主体性という部分に関してはまだまだ改善の余地がある。

授業展開の工夫。

今回は、予習と授業で訳の確認を済ませてから、和歌の解釈を行ったが、ある程度力がある生徒にとっては、訳の時点で先が見えており退屈だったかもしれない。

② 学習方法の指示の明確化。

「どの言葉からも何かしらの思いを感じられる気がして、難しかった。」という感想が見られたり、リライトしたものが事象の羅列のようになっていたりして、生徒はよく活動しようとしていたのに、学習活動の方法の指示が不明確であったり、具体的なイメージを持たせられなかったりしたことが課題の一つである。

ファシリテーターとしての役割の徹底。

生徒から出された意見を、学級全体で議論して深めていくことができなかったのが最大の課題である。深めることを目的としたA Lには真のファシリテーター役が不可欠だと感じた。

Ⅲ 今後の取り組み等

① 主体的な学びの姿勢を身につけさせる。

平安時代の恋愛事情など時代背景について、指導者が説明するのではなく、自分たちで調べてこさせて発表させるなど、より主体的な学びを目指させたい。また、敢えて予習をさせることなく、初見の文章や和歌を自分たちの力で読み解いていく授業の実践も行ってみたい。一方で、「分かる」と「おもしろい」は切り離せない部分もあると思うので、文法など基礎基本の徹底も並行して行っていきたい。

② 深い学びへと導く。

学習活動によってどんな力が身につくか、それをどのように行うか、ということ具体的な例を示すこと等によって明確に伝えたい。また、生徒同士の意見交換を経て学びが深まるよう、指導者は内容について説明し過ぎることなく、生徒の考えや発言を上手く活かしながら授業が組み立てられるよう教材研究を徹底していきたい。身につけさせたい能力と学習活動が乖離してしまわないためにも教材研究の徹底が何より大切だと感じた。